

一一番電車に乗りおくれ、二番電車にとびのつてエ、寝屋川、枚方はやすぎてエ、胸は高鳴る御殿山ア、牧野、樟葉は夢のうちイ、着いた所が橋本のヲ、二階へ上つた四疊半：ソとの相ボタン：：：//なんて実況写。また、ここからあとは書かぬがハナ、//ヘソとへソとの相ボタン：：：//なんて実況写。また、負けたか八聯隊で有名な大阪の兵隊も日曜日の外出ともなれば、京阪電車天満橋駅一番乗を目指して突撃した。二等兵、一等兵の下級兵士は遠く大阪と京都の境目の橋本まで行つたのだ。上等兵、下士官クラスは飛田、将校ともなれば、官舎があつて大低女房もち。單身転属で来たりした奴は今里新地、ここは二枚鑑札と言つて、芸者と娼妓兼任で線香代が高いい。浜の仲仕と言われた港湾関係は松島、堺には竜神、ここは泉州方面の漁師、枚方の桜新地は河内の百姓とおおよその客筋がきまつっていた。

戦後、この飛田遊廓を舞台にした「真空地帯」という小説が出、映画になつた。

で、やり手のばあさんが、「あんたら何さがしてんのや」という。「山海樓の花枝さんがいるときいたんでさがしてるんや」、そこでぬかしたばああのセリフが「ああ山海樓かいな、ウチの昔のノレンや、あの事件で憲兵隊がウルソウて、今のノレンに交えたんや、ウチやウチのことや、花枝ちゃんか、いるで蓮者やで、（奥に向つて）花枝ちゃん出いで」

ハイとか言つて出て来た二十才位の花枝ちゃん、こちらの人數が多いのでキヨロキヨロしている。

なんぼ地元でロケをしたからと言つて、憲ちゃんを見てあるいているうちに、ひやかしく言つたものだ。

それからしばらく、何軒かの山海樓と花枝兵隊まで引合に出して、全然年の合わん花枝ちゃんが出てくる。全くやり手はあとはよろしていいる。

オンドレらことをどこと思つてケッかる、ゲ

木谷上等兵と山海樓の花枝さんというのがいい仲になつて：：いろいろ事件がまきおかるのであるが、それはさておき、昔の河内のガキも少しは年をとつたがまだ若かつた。昭和二六、七年のことだと思う。新世界のクシカツ屋、一本三円、焼ちゅう一杯二〇円。友達の誰かが会社を首切られて、退職金が入つた。大ていはレッドバージとか懲戒解雇で退職金なしで首切られた中で退職金のもらえる首切なんてしあわせだつたのだ。

七、八人で入つて、「クシカツ二百本」なんて注文して、首切祝の醉がまわってきたところ、誰かが真空地帯の話をやり出したのが、山海樓の跡が今でもあつて、花枝さんのモデルになつた女がいると言ひ出した。

あれは小説だ、いや小説にはモデルがいると、ついに実地見聞となつた。

映画のロケをやつたのが大門通より南だつた記憶をたよりに、そのあたりを数人が、こゝやかい、あすこやないと、のぞきまわるの多いし、酔もそこそこ烟つてゐる。

向うも若い衆を呼びに行つたらしい、あわや血の雨かと言うときボリ公が數人走つてきた。大門前のボリ箱へつれて行かれて部長といふのが「ここは赤線やからよかつたものの青線やつたらお前殺られてしまふぞ」としきり説教を聞かされた。

赤線と青線

そのまた説教をはじめ聞くわけがない。「赤線と青線の違いはどういうことですか」、その部長が一枚の地図をとり出して、赤線のひいてあるところと青線のひいてあるところを指さし、費するに娼妓直屋として公認されている所で毎週一回検診（性病）をして公衆衛生上害のないようにしてある所、青線とはカフェ等風俗営業の許可しかないのに、女に

客をとらせるので衛生によくない所、つまり警察の取締の都合で地図に青や赤の線を引いてあるということで、この部長おまけに「あ

つたらウチへおいでや」
警察のヤボな赤線やのうて明線みたいなど
ころがあつた。

そぶなら赤線が安心だよ」と女郎組合から〇
M代でももらつてゐるようを口ぶりだつた。

当時の花代が一つで三百円位、泊りでも十二時を少し廻つたころからなら翌朝十時に「おむかえだつせ」とやり手ばばふに追出されるまで値切つたら、お茶引くよりましだから六百円立てなるへ当時の鑑の日當の一日分で花

代の一つぐらいにはなつた)。

赤坂といふ言い方はきらいたか公認である
と、言うことで、大っぴらに歩けたものだ。
〃ひやかし〃（素見と書く）と言つて、あそ
ばなくとも、一まわりひやかしてあるかんと
寝られんといふファンがたくさんいた。

ちつきがないが、それよりも、赤裸當時までの明るさがない。のれんの奥のスキ間からまコが手まねきするように、小声で「ちょっとよつて行つて」と、あの甘納豆を食わせてくれた当時のあのあけっぴろげさがない。

ど飾り立てていたが、今は何もない。つまり料亭と遊廓のちがいが、こういう所に現れてゐる。

程なく中ビンビールと、つまみがほんの一
つまみ、コップ二杯半でビールがなくなると
女が「エエコトする」ときく。「フトンもな
いのにどないするねん」「あんたここ（飛田
）で遊んだことないのんかいな、この座布団の
上で、すぐ終るんやからそれでエエやんか」
「それともう一つ空セフトとつてもらわんな
あかんねん、はじめのセフトはお店の分、あ
とのセフトが私の分、そうかもうちょつと飲
む、二つ目のセフトからは私の払もどしがつ

「お○よちやん」と呼ばれた女は「いらつ
しゃい（オレがばばあに六千円払っているの
をみながら）おばちゃんにチップあげてね」
ともう一枚とられて、「二階へどうぞ」案内
された四畳半だが昔みたいに布団はしいてい
ない。小さなテーブルに座ぶとんが二枚、昔
の女郎は室にタンスや姫鏡台、人形や花立な

さてさて今は。。。

さて遊廓から赤綾まで書いて、これで止めたら、ただの回顧談にすぎない。今の飛田がどうなっているのか、それを書かねばならんことになってきた。

「取材費は出せんよ」と編集長の言うたことが、今になつて、〃やつぱり編集長といふのは頭がようないと出来んのやなあ〃といふ変な感心の仕方をして四苦八苦、今は料亭ということになつてゐるところへ、どんな料理ができるのか食べに行かなならんハメになつた。

何事も実証主義のため、野球なら代打・代走を出せるが、こればかりは誰に頼んでも、内心は行きたくても皆んなことわられた。そこで原稿〆切前夜意を決して行つてみた。高速道路が横切つたりして全体が何となくお

卷之三

ど飾り立てていたが、今は何もない。つまり
料亭と遊廓のちがいが、こういう所に現れて

程なく中ビンビールと、つまみがほんの一つ
つまみ、コップ二杯半でビールがなくなると
女が「エエコトする」ときく。「フトンもな
いのにどないするねん」「あんたここ（飛田
上で、すぐ終るんやからそれでエエやんか」
「それともう一つ空セットとつてもらわんを
あかんねん、はじめのセットはお店の分、あ
とのセットが私の分、そうかもうちょっと飲
む、二つ目のセットからは私の払もどしがつ
くねん」 中ビン六千円のビールをそう飲んで
られんわ、何とか帰る口実をつくろうと
布団なしであそぶなんて気分が出んが、オレ
みたいなアル中に六千円のビール飲ましてな
ら三億円あつても足らんがな」すると女が、
「布団のある所へ行きたいねんやつたら空き
フト五つとつてくれたら、ホテルへ行つたば

るよ、車代とホテル代はあんたもちで」つまり中ビンビール一本で座布団の上であそぶとチップ込で一万三千円、布団のある所へつれて行つてもらうと三万円とプラス何千円かになるわけである。

ここまでわかれは大体うわさにきいていたことと大差ない「今日はゼニがようけないしまたくるわ」と立ちかけたとき、おねえちゃんの怒ったのなんの、「あんたここへ何しに来たのん、何もせんと帰るて私に恥かかす気か、私がいややつたら他の子に声かけたげたらどうやねん。一セフトだけやつたらウチのもうけはないのやで皮ハハアンわかつたオッサン、小説屋やろ、デカにはみえんけど、さつきからなんやかや話ばかりさせやがつて(いやほんとに申し訳ない、小説屋なんてそんな大それたものではないけど取材に來たことはたしかなんだからゴメンね……心でわびて)まあねえちゃんそないおこるな、大阪へ來てまだ間がないのや。昔の飛田のつもりで高さ。

つけ加えたいこと

以上、飛田今昔の概況ですが、ちょっと書き加えたいことを二、三例つけてみよう。頃は第一次世界大戦の前、日本は空前の造船ブーム。木津川筋の造船所は十日毎の下請勘定日に下請の親方が手配した人力車がむらがつたとい。ゼニをもつた労務者を飛田松島に送り込んだとい。居連(いつづけ)であそばせて金を早く使わさんと仕事に出てこないから工場の門から遊廓へ直行させただ。

哀しい運命のもとに売られた女と、それを買わされた労務者の、その血が日本の資本主義を太らせてきたのだ。

きたんや、えらいシステムが変つてしまつてるのでわからんかつたんや、料亭で書いたあるさかい、まあ一ぱいのもうかと思つて上つただけや、また出をおすわ」するとまたおねえちゃんの言うことに「料理やつたら何でも注文したげるで」と「メニュー」みたいなものを部屋の隅からもつてきた。

「おすしなら口ずしがおいしいよ、おつくりも、天ぶらも、中華なら……」とどうしても金を使わさんことはおさまりそうにない。その上メニューたるや、出前先の店の二倍以上、こんなもの注文したら、また中ビン六千円、すしも一人前ではすまんだろう。

「今日のところはゼニがないので、また出なおすわ、まあねえちゃんまんじゅうでも買って食べてんか」と千円一枚ムリヤリおしつけて、「……ケタオチ〇〇〇もようせんのに上のアホがあるか……！」曲り角までボロクソに言われながら逃げるような有様でした。

その次は最近あるすし屋でボリ公らしい三人が話しているのを聞くともなしにきいていた話。十六才の家出娘が客をとつたのをつかまえたが売春防止法の意味がどうもわからんので説明に苦労したとい。

売春防止法という法律があつて字で書いて説明したところ、「春を売つたらあかん」という字をどう説明してよいのか困つた、とたかて今は夏やんか」とやり返されて、売春取締る側にもすつきりせんのが元防法だとうことと、防止法であつて禁止法でないといふところに大衆の遊び場所遊廓が廃止になつて芸者遊びのお茶屋といのが廃止になつていないところにムジンがある、とどこのボリ公かわからんが奴らなりのムジンを感じているといふことらしい。